

## 身近な自然が魅力的



「植物が身近にあるから、四季がはっきりわかる。自然が魅力的です」

NPO法人自然体験共学センターのスタッフ、田崎裕美子さん(29)＝福井市中手町＝は京都府出身だ。05年2月から、上味見地区の民家を間借りして暮らし始めた。以前は車で通ったが、落ち着いて活動に取り組みようと引っ越しを決めた。「地域の人はシャイだけど、懐かたかい。そしてこの土地を愛していますね」

## 地元豪族研究に60年

ふくい森の子自然学校の校長、梅田秀彦さん(83)＝福井市味見河内町＝は伊自良の里資料館の館長でもある。上味見地区に拠点を置いた豪族・伊自良氏の研究に取り組んで60年近くになる。教員生活を始めた23歳の時、地域でもあまり知られていなかった同氏存在を知った。以来、多数の古書を読み、足跡をたどってきた。新事実を発見した時は「伊自良氏が『見つけてくれてありがとう』と言っている気がする」という。



## 笑顔に会いました

## 自給自足生活に満足



「山はスーパーみたいなもの。山菜も採り放題です」。自給自足で集団生活する「朝飯舘」の谷崎賢一さん(64)＝福井市中手町＝は83年4月に東京から移住してきた。同名の通学塾を経営していたが、費かきの意味を考え直した時、今の暮らしにたどり着いた。仲間5人と、切り出したまま自作の米を炊き、川魚を釣り上げ、割烹した鶏の卵を食べる日々だ。「自分の手で生み出し、育てる楽しみがある」と満足そうに語る。

## 町名つけた特殊繊維

上味見地区の一つ、神当部町にある糸加工会社「内田機糸」。社長の内田一朗さん(48)は同町にちなみ、独自に開発した特殊繊維素材を「カントベロン」と名付けた。ポリプロピレンにゴムを織り込んだ。靴に巻けば未履時と比べて転びにくくなる。この素材で造った転落防止用グッズは全国で大人気だ。大阪市の長靴製造業者が「靴底に使いたい」と打診してきた。「もしかしたら神当部町の名前が広まるかも」と笑う。

